

会社法人等番号：	0124-05-004289
----------	----------------

事業報告書

2020年7月1日から2021年6月30日まで

住 所 : 東京都調布市国領町1-25-20-509
名 称 : 一般財団法人宗像協会（宗像財団）
代 表 者 名 : 田中真奈

1. 事業概況

拠出金：	1億5千万円	昨年度支出：	14,725,408円	今年度支出：	13,115,723円
------	--------	--------	-------------	--------	-------------

役員等

	役職名	氏名	常勤非常勤の別
理事	代表理事	田中真奈	常
	理事	二階堂有子	非
	理事	田中和子	非
監事	納野和広		非
評議員	評議員	穂満将徳	非
	評議員	松浦由佳子	非
	評議員	田中誠	非
	評議員	深町英樹	非
事務局	事務局長	田中真奈	常
顧問	ファンドレイジング顧問	長谷川攝	非

宗像助成金支援事業

事業の名称	実施団体名	実施地域	支援額
人身売買からの少年の保護	Nedan Foundation	インド・アッサム州 (ボドランド)	(昨年 2,008,000円)
人身売買から保護された少女の暮らすホーム運営	Nedan Foundation	インド・アッサム州 (ボドランド)	2,466,000円
看護助手養成事業	Nishtha	インド・カルカッタ	(昨年 1,008,000円) 1,341,000円

LGBTI コミュニティー支援	Center for Human Rights and Rehabilitation (CHRR)	マラウイ・リロングウェ	(昨年 9,000 米ドル) 12,450 米ドル
LGBTI 難民支援	CHRR	マラウイ・リロングウェ	
ユース・インパクト・ラボの運営	YouthFirst	マダガスカル・アンタナナリボ	(昨年 8,000 ユーロ) 8000 ユーロ
安全な飲料水の提供事業	えひめグローバルネットワーク	モザンビーク・モアンバ郡	(昨年 2,000,000 円) 2,000,000 円
女性のエンパワメントと生活改善事業	えひめグローバルネットワーク	モザンビーク・モアンバ郡	
ロヒンギャ難民ホストコミュニティ支援	アイ・シー・ネット株式会社	バングラディッシュ・コックスバザール	(昨年度 100 万円支援もコロナにより繰り越し)
トランス女性への暴力防止プロジェクト (SGVB 防止)	Khawaja Sira Society (KSS)	パキスタン・ラホール	(昨年 9,000 米ドル) 6,500 米ドル
トランス女性を含めた若年層への職業訓練	Go Green Welfare Society	パキスタン・ラホール	(昨年 9,000 米ドル) 12,000 米ドル
開放病棟による薬物リハビリセンター支援	Rosha Rasta	パキスタン・ラホール	(昨年 9,000 米ドル) 9,000 米ドル
合計			
12 事業	9 団体	6 カ国	11,232,184 円

2. 理事会・評議会

第 4 回定時理事会	
日 時	2020 年 7 月 5 日
議 題	2019 年度事業報告の承認
	2019 年度事業報告の付属明細書の承認
	2019 年度財務諸表の承認

	2020 年度事業計画の承認
	2020 年度収支予算の承認
	ファンドレイジング担当顧問の選任と承認
	COVID-19 対応追加支援についての承認

第 3 回定時評議会	
日 時	2020 年 7 月 25 日
議 題	2020 年度財務諸表の説明と承認
	2020 年度活動計画と収支予算の承認
	理事および代表理事の再任についての決議

第 4 回臨時評議会	
日 時	2020 年 12 月 21 日
議 題	新規評議員（深町英樹氏）の選任と承認
	定款の改定
	COVID-19 対応追加支援と貸金庫利用についての報告

第 5 回定時理事会	
日 時	2021 年 1 月 12 日
議 題	新規評議員（深町英樹氏）の選任と承認
	定款の改定
	COVID-19 対応追加支援後の現地進捗状況報告
	募金状況の報告
	賛助会員についての議論（⇒否決）
	国内啓発活動についての報告

3. 国内外の個人や団体への支援（定款目的①）

【宗像助成金 Munakata Grant】

現在 6 カ国 8 団体で合計 12 の事業の支援を実施している。2020 年 1 月からの全世界的なコロナウイルスの蔓延とそれに伴う経済活動・社会活動の停滞によって、助成金を受ける団体の支援先が著しい貧困に見舞われているため、それぞれの団体の状況とヒアリングの内容に応じた追加支援を実施した。追加で支援を受けた団体の活動は以下の通り。

- **Nedan Foundation** : ロックダウンによりボドランドに帰還した少女・女性への生理用品や衛生キットの配布。救済された女性へのマスク製作の委託事業、学校閉鎖中の少女の農業活動や PC スキル研修ほか（追加支援額 458,000 円）。
- **Nishtha** : ロックダウンで出稼ぎ労働していた男性の失職と帰還に加えてサイクロンの被害が甚大であったため、最も脆弱な少女・女性への食糧・生理用品・衛生キットの配布活動の実施（追加支援額 333,000 円）。
- **CHRR** : ロックダウンと空港閉鎖によって第三国定住が出来ず、精神的疲労が著しい LGBTI 難民へのパソコンと WiFi 無制限利用の供与（追加支援額 1,650 米ドル）。
- **KSS** : ロックダウンにより路上でのダンスや物乞いなどの機会を失ったトランス女性への食糧支援・COVID-19 啓発パンフレット配布・衛生キットの配布（追加支援額 2,000 米ドル）
- **GoGreen** : 拠点とするラホールのトランス女性への移動式販売バイク購入に加えて、カラチの大洪水による強制移住で家を失ったセクシャルマイノリティーへの家賃補助（追加支援額 3,000 米ドル）。

【事業視察について】

当初は 2020 年度中に支援先であるアフリカ 3 ヶ国（マダガスカル、マラウイ、モザンビーク）を視察する予定であったが、空港閉鎖と減便のため、海外渡航を伴う事業の視察は全て中止した。代わりに追加支援先全てとの Zoom 会議を行い、WhatsApp を通じた活動のフォローや支援者との直接のビデオ通話やチャットなどを頻繁に行った。

4. 国内外での啓発活動（定款目的②）

当初の活動計画では団体名と同じ名称の福岡県宗像市を訪問して、自治体とのコラボレーションを企画する予定であったが、日本国内で度重なる緊急事態宣言と県外移動の自粛要請を受けて断念した。また 2019 年度は TICAD7 の公式サイドイベントの主催や武蔵大学での講義などを通じた啓発活動を実施したが、2020 年度はコロナによるイベントや講演自粛のため、オンラインベースでの啓発活動のみに専念した。オンラインによる主な啓発活動は以下の通り。

- **YouTube インタビューへの出演** : 横浜市青葉区に拠点を置く StudioChiffon の YouTube チャンネルに宗像財団代表理事として出演。
- **ツイキャスラジオへの出演** : アプリベースのラジオ番組「いがちゃんステーション」にて宗像財団の活動紹介。

- ▶ Zoom チャリティートーク出演：Not For Sales Japan (NFSJ)が企画した人身取引撲滅についてのカフェトークに出演し、宗像財団がインドのポドランドで取り組む人身取引からの救済活動について紹介。
- ▶ Zoom ライブキャスト配信への出演：enjoy Diversity&Innovation が配信するライブに宗像財団代表理事として出演し、パキスタンで取り組む薬物リハビリの活動について紹介。
- ▶ Clubhouse のトークへの出演：日本のジェンダー問題について英語で議論する Clubhouse のトークへ宗像財団の代表理事として出演。

5. 国内外での支援を募る募金活動（定款目的③）

2020 年度はファンドレイジング顧問を迎えて中長期のビジョンを設定した。また財団の新たな評議員として、一般社団法人 GEMSTONE 代表 / ビジネスプロデューサー・経営コーチの深町英樹氏を迎え、ファンドレイジング顧問と共に宗像財団の可能性や強みについての対話を行った。

またファンドレイジングに係る広報活動を広げるために、代表理事である田中が動画コンテンツ作成についての個人レッスンを受講した。田中は他にも元東京大学准教授のスティール・ジャッキー氏が立ち上げた enjoy Diversity&Innovation の共同創設者として、日本財団の社会起業支援プロジェクトに参加して、2021 年 3 月～6 月までスタートアップに関する講義を受けた。

2020 年度にご寄付を頂いた具体的な活動としては、これまでの寄付者の方々に年始にお送りしたお礼状と年賀状に対して、追加の寄付があった他、Facebook Group での呼びかけ、上記 Zoom チャリティートークに対してそれぞれ個人の寄付があった。

現時点では企業や団体への寄付や賛同の呼びかけは行われていないが、2021 年度の活動計画の中では企業や団体が行うアクセレレーションプログラム（社会起業家のプレゼンやイベントへの出場・参加）を盛り込む予定。

6. インターンの活動

【国際基督教大学ウルーサさん】2019 年の 10 月よりインターンを始めて、2020 年 3 月には貧困層の少女と女性のためのプログラミング・キャンプ実施のためにカラチに渡航したが空港閉鎖で帰国。2021 年 6 月に ICU を卒業して 2022 年 4 月よりアクセンチュアで IT コンサルタントとして勤務予定。オリパラボランティアの後でオンラインによるプログラミング・ブートキャンプを JICA 識字教育事業と共催でラホールで実施予定。

【東京外国語大学交換留学生】2021年3月よりルワンダのPIASS（プロテスタント人文・社会科学大学）から東京外大へ交換留学で来ているウガンダ人のテンボさんとブルンジからルワンダに難民として来たファブリスさんをインターンとして迎えている。テンボさんはウガンダのセクシャルマイノリティーの実態について、ファブリスさんはブルンジとルワンダにいる少数民族トゥワ族の人権問題について、それぞれ調査中。2021年7月末にルワンダへ帰国予定。

7. 2021年度の課題

一般企業での海外コンサルタントを兼務している田中が2021年5月にコンゴ民主共和国、6月にセネガルへ業務渡航したため、2020年度の会計年度の締めと財務諸表の作成が遅れた。2021年度からは本格的に海外業務がスタートするため、FacebookやHPの更新、会計業務、寄付者への領収書・お礼状発送などの業務についてはクラウドの利用や外注を積極的に行う。

また宗像助成金は3年間契約で2021年度にパキスタン3事業を除いて全て終了予定あるが、コロナ対応によって各団体とも支援目的であった本来の活動が展開出来ない状況であるため、それぞれの状況に応じて、1年間延長することについて理事会で議論された。バングラディッシュのロヒンギャ難民ホストコミュニティ支援（女性の収入向上）については現地渡航できないため1年繰り越しされており、2021年度も繰り越し場合には、他の事業への振り分けを支援先団体であるアイシーネット株式会社と協議する。

(以上)